

リサール
酵
産

飯川社長が講演

リサール酵産(埼玉県さいたま市北区宮原町2の110の12)の飯川雅丈社長が、6月24日に燕三条地場産業センターで開催された「平成27年度肥料農業情報交換会」

(主催・新潟県農業士会)の講師として招かれ、土づくりこそ農業の基本

『カルスNC-R』生の有機物を活かす土づくりと題した講演を行った。

新潟県農業士会(渡部允徳会長)は、毎年この時期に、各資材メーカーと協力して勉強会を開催。今回は、肥料・農薬メーカー44社が地場産業センター大ホールに出展。農機メーカーはクボ

カルスNC-Rが著効



100名余りの会員を前に講演する、リサール酵産の飯川社長

法を発表した。それにすると、粗大有机物の利用による土壤改良の目的は、①生物的改良(土壤微生物のバランスを整える)のために、堆肥や微生物資材などを投入する②化学的改良(酸度調整・塩基置換容積の増大)のために、微

オガクズ・チップなど)を生や未熟のまま、土中で堆肥化する。これまで堆肥を十分発酵させ完熟堆肥にしてから、田んぼや畑に使用することが一般的であったことに比べ、そのやり方と大きく異なる。

オガクズ・チップなどを生や未熟のまま、土中で堆肥化する。これまで堆肥を十分発酵させ完熟堆肥にしてから、田んぼや畑に使用することが一般的であったことに比べ、そのやり方と大きく異なる。

ら、作物づくりを同時に行なうことが特徴で、全国の農家から生産性が向上する。そこで、「カルスNC-R」を使用し実績を出している農業士会会員の推薦により、今回のRによる生の有機物を活用した、土づくりの農

このことが「カルス農業」を理解をする上で大変な一歩となる。そこで、「どうかくも」として、結果を見て欲しい」と40

今年は「国際土壤デー(12月5日)」および「国際土壤年」の開始の年である。そのメッセージである健全な土壤なしには、健全な生活は成り立たないということを、肝に銘じて、よりよい土づくりを目指していくたい

これを、粗大有机物条件でも活動的でできる微生物を主体とした複合型の土壤改良資材(緑肥・作物残渣・畜糞堆肥)と同時に施用し、生堆肥(堆肥)とともに施用され、生モミガフで土を深耕を実施する。結果を見て欲しい」と40種類の有用菌は、担体となる上質の天然ゼオライトと組み合わせ、1kgを防ぐため、硫安40kgを放線菌や糸状菌など嫌気性菌を防ぐため、硫安40kgを同時施肥する。

「カルスNC-R」は、年間推進し、大きな実績をあげてきた。

「カルスNC-R」は、地中に5億以上含まれておいて意見交換が行われ終了した。

このにより、①すき込み減②夏場のガス湧きを抑制③品質の向上や增收などとした良質米の生産につながる。また、畑作・果樹などの農産物は、糖度が大きく向上した実例が報告されている。時間が限られているため、すべてを発表できないが、興味のある方は、後で当社ブースにお出で頂きたい。

今年は「国際土壤デー(12月5日)」および「国際土壤年」の開始の年である。そのメッセージである健全な土壤なしには、健全な生活は成り立たないということを、肝に銘じて、よりよい土づくりを目指していくたい

講演会後、各ブースにおいて意見交換が行われ終了した。